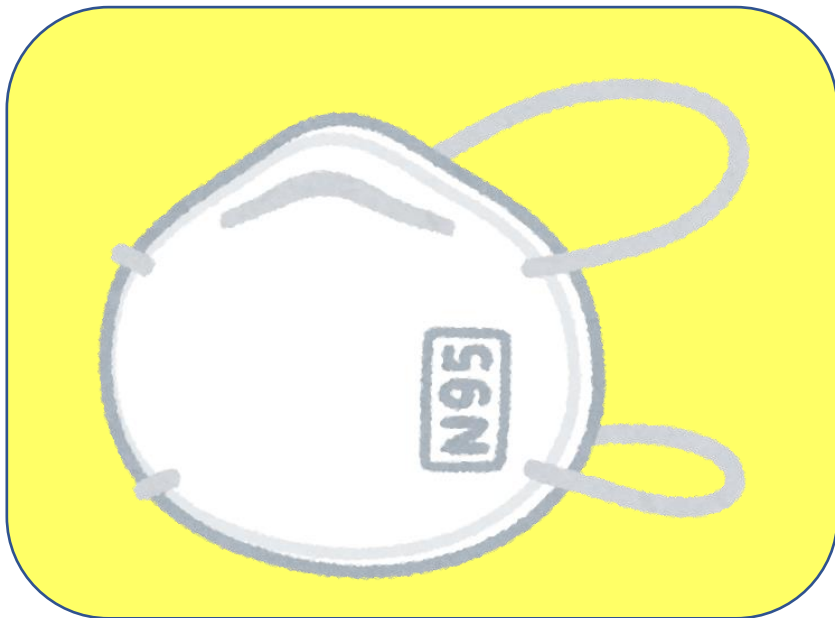


防護用具の着脱

～N95マスク

正しく装着できていますか？～



2024年9月19日(木)

担当病院

JCHO玉造病院 石倉 淳子

松江赤十字病院 尾田 彩

1. 防護用具の選択

湿性生体物質(感染性のある物質)

血液、汗を除く体液、分泌物、排泄物、傷のある皮膚、粘膜

手指が
汚染しそうな
時

手袋

衣服や露出して
いる身体の部位
が汚染しそうな
時

エプロン
ガウン

鼻腔・口腔の
粘膜が
汚染しそうな
時

マスク

眼の粘膜が
汚染しそうな
時

ゴーグル
フェイスシールド

曝露のリスクを予測し、
必要な防護用具を組み合わせる!

2. 防護用具の着脱手順

着る順番

① **手指衛生**



② ガウン・エプロン



③ マスク



④ ゴーグル・
フェイスシールド



⑤ 手袋



③と④は
逆でもよい

脱ぐ順番

① 手袋



② **手指衛生**



③ ゴーグル・
フェイスシールド



④ ガウン・エプロン



⑤ マスク



⑥ **手指衛生**

正しい順番で着脱する！

3. SFTS重症患者対応時の感染対策

- マスク
(エアロゾル発生手技の際はN95マスク)
- ゴーグル/フェースシールド
- ガウン
- 手袋
- 体幹や手指が血液・体液で汚染されいやすい場合には、二重手袋やエプロンの追加も考慮



4. N95マスク

【役割】

5 μ m以下の飛沫核に付着した病原体を捕集することができ、着用者への肺への病原体の侵入を防ぐことができる

【N95マスクが必要な場面】

- 結核、麻疹、水痘など空気予防策が必要な感染症
- 新型コロナウイルス感染症患者対応時

近い距離で長時間診療・ケアする場合

患者の咳症状が強い場合

患者が大声を出す場合

エアロゾル発生処置(例:気管挿管・抜管、吸引、NPPV装着、吸引、気管支鏡検査、ネブライザー療法、誘発採痰)

【使用上の注意点】

- 顔にフィットしているマスクを選択し、適切に着用する
顔の大きさ・形、鼻の高さ、ひげの有無等でフィット感が変わる
- 装着の度に**ユーザーシールチェック(フィットチェック)**をし、
空気の漏れがないことを確認する



ユーザーシールチェックとは:

N95マスクと顔の間から空気の漏れの有無を調べ、正しく装着できているかを確認するもの

【方法】

- ①陽圧確認:N95マスクのフィルターの表面を手で覆ってゆっくり息を吐き、マスクと顔の間から空気が漏れていないか確認する
→空気の漏れがなければOK
- ②陰圧確認:同様に手で覆ってゆっくり息を吸い込み、マスクが顔に向かって引き込まれるか確認する
→引き込まれればOK

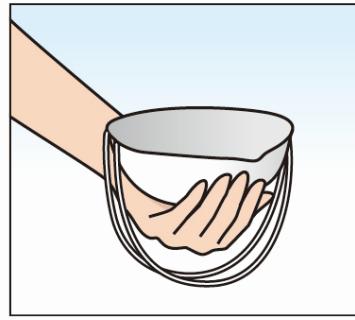
- 他のマスクの上からN95マスクを重ねて装着しない
(顔との間に隙間ができる)
- 繰り返し使用する場合には、汚れていたり、水に濡れたり、顔にフィットしなくなったら交換する

5. N95マスクのつけ方・外し方

【つけ方】



①手指衛生を行う



② N95 マスクの上下を確認し、ノーズピースが付いている側を指先のほうにして、手のひらにのせる



③ 顔に N95 マスクを当て、鼻から顎まで覆う



④ 片手で N95 マスクを押さえながら、上側のゴムを頭頂部に掛ける



⑤ 下側のゴムを首の後ろに掛ける



⑥ ノーズピースを押さえ、鼻の形に沿わせ、隙間ができないように顔に密着させる



⑦ 両手で N95 マスクを覆い、息を吐いてみて、マスクと顔の隙間から空気の漏れがないか確認する (ユーザーシールチェック)

N95 マスクには、カップ型、折りたたみ型、くちばし型の物がありますが、着用方法は同じです。鏡を見ながら行うと着用しやすいです

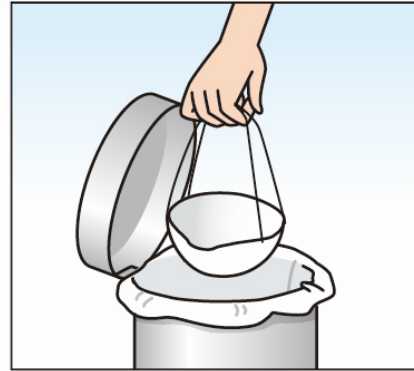
【外し方】



① 首の後ろ側のゴムを両手で持ち上げ、N95マスクの表面に触れないようにして、顔の前側から下に降ろす



② 頭頂部のゴムを両手で持ち上げ、顔から外す



③ ゴム部分を持って所定の容器に廃棄する



④ 手指衛生を行う